

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員(4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
☎ 042-795-7361 (FAX: 必
要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



学校給食無償化に遠い町田市

子育て育成事業の推進や、保護者負担の軽減の観点から、学校給食費の無償化が新たな教育施策として、個別自治体が導入する例が出てきました。当初は、地方での子育てや教育を、行政目標の目玉にした自治体で行われてきたものでしたが、昨今では、財政的に豊かな東京都の都区部で導入しようという動きが複数の自治体で始まりました。恐らく、この動きは東京都区部の全部で一般化の動きが出てくるでしょう。もとより、国政では自民党(茂木幹事長)が学校給食の無料化を提言しています。将来的には、国費負担で無料化となるのではないのでしょうか。



視察した青森県八戸市の学校給食

こうした動きに対して、町田市を含む多摩地域の自治体は前向きでなく、国でやってくれるのであれば賛成という行政的立場となっています。*その見積もられる額は、小中学校の給食費 17億2千万円(小学校10億7千万円、中学校6億5千万円)を毎年支出することが必要になります。私は無償化の流れには町田市も合わせないと、東京都区部に出遅れると考えています。

学校給食にコオロギなどの昆虫は取り入れないでの声について

この間、国の一部で昆虫食への関心と消費を進めようという動きがあり、保護者の方で、町田市も昆虫食を給食に取り入れるのでないかと言う懸念が出ているものです。すでに、一部食品メーカーが昆虫入り(パウダー)の食品を製造したり、一部スーパーがそれらを陳列しているというものです。メーカーやスーパーの動きに関しては、それが表示してあって消費者が自分で購入の是非を判断できるものですが、学校給食はそうはいきません。

全員給食のため、アレルギー対応で個食の児童以外は全員が同じ調理を食べることになり、昆虫を入れた給食が出たら、児童・生徒は全員がそれを食べることとなります。昆虫食には、その安全性の疑問だけでなく、その感触・印象で一般に受け入れられる状況にはないと思うものであり、学校給食への導入は、見合わせるべきだと提唱するものです。

(写真は自宅ご飯メニュー)



◎町田市で、水耕栽培メロンの世界一決定戦を開催しよう!

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

吉田つとむの市議会報告は、月2回定期発行をしています。4月は特別に3回発行しました。

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
夏季の第52期生を募集開始

他都市では統一地方選挙でした

この間は、全国各地で統一地方選挙が行われていました。近隣の東京都、神奈川県、埼玉県に限らず、福岡県まで足を伸ばして応援に回っていました。これまでに縁があった人を中心に回るのですが、同じ無所属に限らず、政党所属候補のところを巡りました。それもこの間に政党を変えた人もありました。訪問した候補者の激励先は、無所属、自民党、立憲民主党、日本維新の会の人たちであり、多党化の時代としては、付き合いの幅がやや狭いのかなと自身で感じています。(4月12日現在の記載)

応援する候補者の結果では、連続トップ当選をした候補者、上位当選の安定した候補者、初めて落選に遭遇した候補者、そして無投票当選をした人など多岐に渡っていました。無投票当選と言うのは、定数3名の県議会議員選挙区のケースでしたが、有力政党がそれぞれ1名の公認候補を立て、それ以外の政党候補者や無所属候補者が一人も出なかったというものです。選挙運動が告示日1日で終了するものですが、それまでの間は休まず地盤固めに務めた結果だと言えましょう。



無投票当選の候補者にインタビューしました

成人、青年、若者とは①

町田市は子育て施策を意欲的に導入し、最近では、「赤ちゃんに選ばれるまち」をキャッチフレーズにしています。保育所の設置場所の増加支援、子ども施設の新設などが進みました。さらに、高校生世代までの補助事業の取り組みも進みました。その一方で、若者世代(一般には、20-30歳代)を対象にした施策や対応はほとんどありません。そのことが直接の原因かどうかはまだ調査を進めていませんが、若者世代では、流入人口より流出人口が上回る数値を示しており、子育て世代の人口が増えてもその効果を減じる結果を示しています。



町田市は世代の区割りを、18歳までをひとくくりの青少年期、次が19歳から44歳までがひとくくりとする捉え方をしています。他方で、一般には20-30歳代まで「青年」として、その世代にはどのような施策が必要であるかを、いくつかの自治体では担当部署を定めているか、定めようとしています。町田市はそうした現実的な世代把握が出来ておらず、いわゆる「若者」と称すべき世代の人口に減少作用が生じて、いまだ無関心でいるわけです。私は、独自に、若者に特化する施策を提起したいと考え、一般質問のテーマとしました。(続く)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2023年春までに104名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。